

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：郷土を愛し、自立する子どもを育てる ～愛着・自立・貢献～
- 所在地：(川尻小) 広島県呉市川尻町久俊1丁目5-24
(川尻中) 広島県呉市川尻町西1丁目23-47
- 児童生徒数 (H29. 5. 1時点)



川尻小学校 川尻中学校

学年	小学校								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	7	8	9	特別支援学級	計	
児童生徒数	57	62	47	68	41	65	11	351	57	50	48	4	159	510
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	2	2	2	2	8	22

- 呉市概要：〔人口〕 229, 868人 〔学校数〕 小学校36校, 中学校26校

2. 導入経緯

- 平成12年度 現在の呉中央学園(呉中央中学校区)が小中連携の研究開発学校に指定(文部省)
- 平成16年度 小中連携の研究成果を文部科学省に報告
- 平成19年度 呉市内の全中学校区において小中一貫教育を導入・実施

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 「資質・能力」の育成を目指す小中一貫教育

形態・施設

- 施設分離型

教職員体制

- 校長: 各校に配置
- 教職員: 一部教職員に兼務発令
- 小中一貫教育推進コーディネーター: 指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例: 実施なし
- 区切り: 4-3-2
- 行事: 「二分の一成人式」(小学校第4学年)

教科担任制・教員の相互乗り入れ

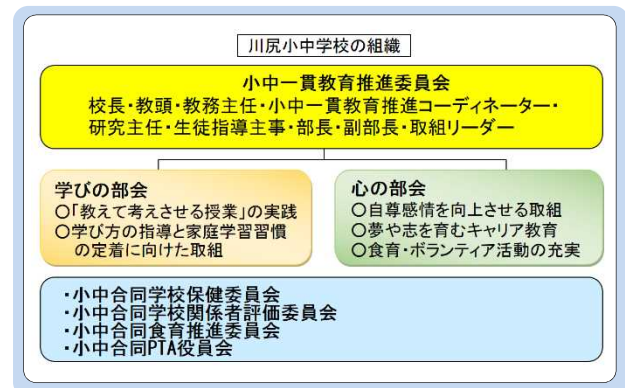
- 教科担任制: 一部教科担任制(第3学年から図画工作科, 第4学年から理科)
- 相互乗り入れ: 小学校の教員が中学校の特別活動に乗り入れ
中学校の教員が小学校の算数科, 体育科に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 第1・4・7学年, 第2・5・8学年, 第3・6・9学年の交流グループを設定し, 学級通信の掲示や手紙のやりとり等で交流している。
- 小・中学校合同の「校内フィールドワーク」を実施(異学年で構成された小グループで活動)
- 小学校児童会, 中学校生徒会の児童・生徒, PTA, 地域の方による合同挨拶運動を実施
- 第4・9学年の児童生徒による合同地域清掃を実施

市町村教育委員会等による支援

- 小中一貫教育推進コーディネーター研修の実施(小中一貫教育推進コーディネーター対象)
- 「学びの変革」推進研修会の実施(教務主任・研究主任対象)
- ブロック別学校経営研修会の実施(管理職対象)
- 小中一貫教育実践事例集の作成
- 小中一貫教育研究指定校事業の実施(補助金交付)



家庭学習の習慣は学力保障の観点からも、生涯学習を見据えた主体的な学習者の育成の観点からも極めて重要であり、段階的な取組を組織的・継続的に行うことが求められます。しかしながら、小中一貫教育に取り組む学校においても、予習と復習のバランス、家庭学習の課題の有無や分量等について教師間・学年間で大きな差が生じているケースがあります。

呉市立川尻中学校区では、家庭学習習慣を含めて、家庭での時間の使い方については、学校の指導と、保護者の協力があってこそ、より良い習慣の定着につながり、子供たちは徐々に自立していくものであると考え、9年間を見通した家庭学習の指導計画を設けたり、小中で統一した「川尻っ子ノート」を活用したりして、家庭学習の質の向上と習慣を身に付ける工夫をしています。

● 9年間のゴール設定「家庭学習で主体的に学び続ける力を育てる」川尻中学校区指導計画

指導計画に区切りごとの家庭学習の共通目標を設け、学年に応じた学習時間を示しています。このようにすることで、時間を意識して学習できるよう指導することができ、家庭学習の目安となる時間を9年間でだだらかに長くしていくことが可能となります。

また、予習・復習の学習内容を示し、「自立ノート」に学習させています。家庭での関わり方、教師の関わり方を共通理解することにより、家庭学習にも発達の段階に応じた指導が展開されることになります。

	時間と目標	主な学習内容	家庭での関わり方	先生の関わり方
後期 第9学年	150分 進路実現のための学力をつけよう	8年にプラス 入試問題を毎日3問以上解く	自立ノートの種類に沿って、より効果的な関わりをお願いします。	○入試問題を準備し、自分に合った進路実現のための学力を育てます。 ○工夫している自立ノートを紹介し、自分のノートに活かせるよう取り組みます。
第8学年	120分 入試問題に挑戦しよう	7年にプラス 入試問題を毎日1問以上解く	自立ノートA ・お子さんががんばっているのを知っていることを伝えてあげてください。	○既習事項で解ける入試問題を準備し、自分に合った課題に対応できる学力を育てます。 ○工夫している自立ノートを紹介し、自分のノートに活かせるよう取り組みます。
中期 第7学年	90分 予習・復習をしよう	6年にプラス 予習：教科書を読み、分からないところを自立ノートに記入する等 復習：ノートやワークを見ながら大切なところを抜き出して書く等	自立ノートB ・1週間に1度は自立ノートをチェックしてあげてください。やりきっていたら、しっかり評価をしてください。	○英語、数学については、毎授業時間の予習と復習を行うよう指導します。 ○入試に対応できる丁寧な文字で書くよう指導します。 ○工夫している自立ノートを紹介し、自分のノートに活かせるよう取り組みます。
第6学年	70分 苦手なところを克服しよう	5年にプラス 間違えたところや苦手な問題を自分で解けるまで何度も解く	自立ノートC ・毎日、自立ノートをチェックしてあげてください。丁寧な字で最後までやっているかどうか確認し、やりきれぬような声掛けをお願いします。 ・やりきったら、しっかり評価をしてください。	○授業中に既習内容を取り入れ、苦手なところを復習できる機会を増やします。 ○苦手な問題に取り組んでいることをしっかりと評価し、わかるまで考える粘り強さを育てます。
前期 第5学年		4年にプラス		

● 「川尻っ子ノート」の取組

このノートは、連絡帳に毎日学習した時間と一日の生活の振り返りを書く欄を加えたものです。子供たちに毎日の家庭での学習した時間、テレビやゲームの時間などを記入させ、一日の生活の振り返りができるようにしました。さらに家庭学習のカリキュラムを作成し、各学年の目標時間を決めることで、時間を意識して学習できるよう指導を続けています。

また、家庭の協力が必要であるため、ノートを通して心と体の健康も含め、家族でコミュニケーションを図れるよう、保護者にも呼び掛け、子供が徐々に自立することができるように工夫しています。



5. これまでの成果と課題、今後の取組

右のグラフから分かるように、各学年の家庭学習の時間が年々増えています。学習時間を意識し、自主的な学習が行われるようになりました。また、子供と保護者の感想にも成果の表れがうかがえます。

【子供の感想】

- ・毎日記録をつけると、自分の生活習慣の良くない点に気付いた。
- ・目標を書くことで、少し勉強時間が増えたと思う。

【保護者の感想】

- ・子供が書いているノートの内容を通して、子供と会話する機会が増えた。
- ・家庭での時間の使い方について、子供と一緒に考えるようになった。

「川尻っ子ノート」等の取組により、学習習慣の定着や改善が見られています。今後は、家庭学習時間等の習慣が付きにくい児童生徒への手立てを充実させる必要があります。

